

雲の上のまち



広報

けすばら

11

2025
〈令和7年〉

月号

No.809



第12回 龍馬脱藩マラソン大会



フルマラソンの部スタート

第12回龍馬脱藩マラソン大会を、10月12日に開催しました。当大会は、日本の夜明けを切り開いた明治維新の志士たちが駆け抜けた「脱藩の道」をコースに取り入れ、地域住民および、関係団体

や、行政機関、学校が協働し、町のPRや地域の活性化につながることを目的として、平成23年度より開催しています。

【参加者】

北は北海道から、南は沖縄県まで954名の方にエントリーいただきました。当日は、869名の方が出走され、841名の方がみごと完走されました。

【前夜祭】

坂本龍馬が国境越え前夜に、一泊して酒を酌み交わしたことから、参加ランナーの相互交流が図れるように大会前日に前夜祭を行っております。
 梶原町婦人会の方々の手作り料理でランナーの皆様をお迎えしました。



おもてなしのお料理

また、梶原高校ダンスカバークラブの津野山神楽、チーム梶原のよさこい演舞に加え、今年は参加者によるギター弾き語りもあり、会場を盛り上げていただきました。
 そして、最後には、婦人会の皆さんと参加者が一緒に梶原音頭を踊り、楽しい雰囲気の中で、翌日に向けて意気込みを新たにしました。



前夜祭集合写真

【大会当日】

台風23号の接近に伴い、天候の心配をしておりますが、幸いにも雨風の影響はなく開催することができました。

開会式は空岡則明実行委員長より開会宣言、名誉大会長である吉田尚人町長より歓迎のあいさつがありました。その後、山田哲也高知県観光振興

スポーツ部スポーツツーリズム課長、梶原町が平成3年から友好交流協定を結ぶ兵庫県西宮市より岩崎敏雄副市長、市川岩亀梶原町議会議長から祝辞をいただきました。

また、今大会は龍馬生誕190年の記念大会であったことから、選手宣誓には、龍馬が脱藩した年齢と同世代であり、初めての脱藩・フルマラソンコースに挑戦する高知市の鉄野将大さんに選手宣誓をいただき、開会式は終了しました。



選手宣誓



エイドで給水(上成)

その後、フル、ハーフ、10キロの順にスタートし、ランナーの皆さんは各エイドや沿道で地域の方々が工夫を凝らした応援や、学生達の元氣な声援に励まされながら、坂道の多い厳しいコースを懸命に走っていました。ゴール付近では、梶原高校と梶原学園の生徒たちによる神楽のお囃子が、ランナーたちの背中を押すように響き渡り、最後の力を引き出していました。



ゴールでハイタッチ

表彰式では、各部門3位までの方と、龍馬生誕190年を記念して、各部門の190位の方に表彰状とメダルが授与されました。

また西宮市との友好交流を記念した友好都市特別賞は愛媛県の今西源一さんと、梶原町の片岡定恵さんが受賞されました。入賞・受賞された皆様、おめでとうございます。最後にありがとうございました。多くのボランティアの協力があつたからこそ本大会が開催できました。また、地域の皆様からの温

かいご声援をいただいたことで、大会が盛り上がり、ランナーの方の励みにもなりました。ボランティアに参加いただきました皆様、誠にありがとうございました。

【大会結果】

各部門の優勝者(敬称略)

フル18歳～49歳の部 男子

上田 隆一(南国市)

フル50歳以上の部 男子

遠藤 紀元(いの町)

フル18歳～49歳の部 女子

古谷 紗弓(愛媛県)

フル50歳以上の部 女子

石河 智子(愛媛県)

ハーフ18歳～49歳の部 男子

前田 涼(愛媛県)

ハーフ50歳以上の部 男子

渡邊 隆史(愛媛県)

ハーフ18歳～49歳の部 女子

二宮 歩美(愛媛県)

ハーフ50歳以上の部 女子

井上 慶子(愛媛県)

10 km 18歳～49歳の部 男子

橋村 大志(四万十市)

10 km 50歳以上の部 男子

幾井 正典(高知市)

10 km 18歳～49歳の部 女子

山内 沙弥香(愛媛県)

10 km 50歳以上の部 女子

片上 佳恵(愛媛県)

各部門の190位(敬称略)

フルの部

上田 和富(広島県)

ハーフの部

石元 泰徳(土佐市)

10 kmの部

永井 篤至(高知市)

【ランナーの声】

「初参加でしたが、噂以上のキツさでした。町民の方々の応援や、スタッフさんの気配り心配りに何回も助けられました」「スタート早々の心臓破りの坂はきつかった。エイドが充実していて、暑い中かぶれる水があるのもよかった。走った後のお



フルマラソンの部 表彰式

弁当もおいしかった。町の皆さんが総出で頑張ってくれているのが伝わりました。良い大会ですね」「毎年参加しています。かわいイイラストの参加賞Tシャツ、お弁当、学生によるエイドボランティア、ゴール地点の応援、コース途中の沿道住民の皆さんの応援。毎年最高の大会をありがとうございます」

ご参加いただきましたランナーの皆様ありがとうございました。

龍馬脱藩マラソン大会
実行委員会

栲原病院・保健福祉支援センター 30周年記念行事を開催

平成8年3月に町民の心と体を総合的にサポートする施設として開設以来、今年で30周年を迎える栲原病院・保健福祉支援センターは、記念行事を10月25日に開催しました。

午前の部は、血圧や骨密度、生活習慣など健康に関することをテーマに設置したブースを体験していただきました。来場者は健康チェックや相談を通して、自身の健康状態や生活の大切さについて改めて理解を深められました。子どもたちの参加も多くあり、白衣を着てドクター体験をしたり、エプロン会の振る舞う災害食を試食したり幅広い世代の皆様に参加いただき、笑顔あふれる一日となりました。

午後の部では、栲原病院の元院長で埼玉医科大学教授の内田望氏を講師にお招きして「人生会議を始めよう」と題した講演をいただきました。普段の会話ではなかなか触れにくい「人生の最期（死）」について、埼玉県小鹿野町の健康フェスタで行った入棺体験の話を通り交ぜながら「人生の最後をどう過ごしたいのか、家族や周りの人と話しておくことが大切。きっかけは何で

も良い。そして、どうしてそう思ったのか理由もぜひ聞いて欲しい。人生会議は、元気なうちから。思いは変わることもあるので繰り返し話すことも必要」とお話いただきました。

繊細なテーマでしたが、内田教授の人柄と楽しいお話により、参加者アンケートでは、「今のうちにこれからの生き方を考えておくことは大事だと思った。」「人生の最後は自分で決めたいし、家族と話しておくことが大切だと思った」などたくさん感想が寄せられました。

今回のイベントを通じて、医療や福祉、健康づくり全てにおいて、町民の皆様と課題を共有しながら、一緒に取り組んでいくことが大事なことであり、改めて日頃よりご理解ご協力をいただいております地域の皆様感謝申し上げます。

これからも、地域の皆様の笑顔と健康をサポートできるよう、職員一同取り組みでまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

栲原病院・保健福祉課

エプロン会の
災害食
試食会



内田教授
による
講演会



白衣を着て
医師と
ハイポーズ



ドクター体験の様子



健康クイズを解いている小学生

子育て応援キャラクター
るんだと一緒に



健康
コーナーの
様子

もしものときのために 話してみませんか？

人生会議

厚生労働省では、11月30日を「人生会議の日」とし、人生の最終段階における医療・ケアについて考える日として普及啓発を行っています。10月25日には椿原病院元院長の内田望先生より、人生会議について講演していただきました。講演会で人生会議について聞かれた方もおられると思いますが、人生会議はどういうもので、どんなことを話すのかについてお伝えしたいと思います。

【人生会議を知っていますか？】

人生会議とは、病気やケガなどで、自分の気持ちを伝えられなくなったもしものときに備えて、自分の思いや希望を家族や信頼できる人、医療・介護の関係者と話し合っておくことをいいます。

誰でも、いつでも、命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると約70%の方が、これからの医療やケアなどについて自分で決めたり、人に伝えたりすることができなくなるといわれています。

町内の65歳以上の方に行った調査では、「医療や介護について、家族と話し合っていない」と答えた人が半数以上であり、その理由として、「話し合う必要性を感じていない」「話し合う

きっかけがない」「何を話し合っているかわからない」などの意見がありました。

一方で、医療現場では「本人の意思が分からない」という理由で、家族だけで決めていかなければならない状況になり、苦しい選択を迫られることが多くあります。判断した後も、「これでよかったのか」など、自問自答したり後悔したりすることもあり、家族の精神的負担が大きくなります。もし、本人の希望が分かっていたら、家族も「これでよかった」と納得して支えることができます。また、本人にとって「自分らしい最期を迎えられる」安心につながります。人生会議は、自分のためにも、家族のためにもなる大切な準備といえます。

【人生会議って何を話すの？】

人生会議というと、「終末期の話」や「死に関する話」と思われがちですが、実はそうではありません。例えば、「どんな暮らしを大切にしたいか」「どんなときに幸せを感じるか」「どんな場所で過ごしたいか」など、日々の生活の中で感じる自分らしさを言葉にすることも人生会議です。それを少しずつ、家族や信頼できる人と共有していくことで、いざというときに家族が迷わずあなたの希望を伝えられるようになります。

なります。

話したことは、簡単にメモしておくで安心です。ノートやメッセージカードなど、どんな形でもかまいません。また、かかりつけ医やケアマネジャーなどにも伝えておくと、いざというときに自分の希望に沿った医療や介護を受けやすくなります。例えば、「延命治療をどうしたいか」といった話だけではなく、「季節の花を見たい」「好きな音楽をかけてほしい」など、ささやかな願いも立派な人生会議のテーマです。

大切なのは、形式ではなくあなたの思いを誰かに伝えることです。

【きっかけをつくるタイミング】

人生会議を始めるタイミングに決まりはありません。家族が集まるときに「これからのことを少し話してみようか」と切り出すのもいいでしょう。

また、病気や介護をきっかけに考える方も多いと思いますが、元気なうちに始めておくことで、自分の考えを整理しやすく、家族とともに前向きに話し合えます。「今はまだ元気だから関係ない」と思う人こそ、自分の価値観を見つめ直すチャンスです。

人生の考え方や希望は、年齢や体調、家族の状況によって変わるものです。だからこそ、人生会議は何度でもやり直すことができます。「前はこう思っていたけど、今はこうしたい」と話し合いを重ねていくことが大切です。一回で完璧に決める必要はありません。

【人生会議は未来のために、 「今」を大切にすること】

人生会議は、「死」に向き合うための話し合いではなく、「生きること」を見つめるための時間であり、「自分らしく生きるために、これからどうしたいか」を考える前向きな話し合いです。自分が大切にしたいことを考え、伝えることで、残りの人生をより豊かに過ごすことができるのではないのでしょうか。

今を大切に、これからの人生を自分らしく生きるために、一度、家族や信頼できる人と、人生会議を開いてみませんか。

保健福祉課 多世代包括支援係



第12回 梶原町芸術祭開催

10月25日、26日に第12回梶原町芸術祭を開催しました。

ゆすはら・夢・未来館2階大ホールで、町民作品展及び学校作品展を開催しました。一般の方や、梶原こども園・梶原学園・梶原高校から約680点の力作が展示され、展示を行いました。

25日はゆすはら・夢・未来館1階ロビーで、梶原茶道クラブによるお茶の接待を行いました。

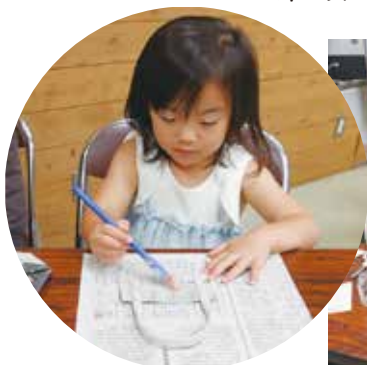
26日には町民ステージをゆすはら座で開催しました。文化協会の各サークルをはじめ、ししまる太鼓、梶原学園音楽部、梶原高校音楽部そして町外ゲストをお招きし、大変賑わったステージ発表となりました。

また、初めての試みとして、町内在住の吉富文さんによる「しまんと新聞ばっぐ作り」を行いました。参加者は、講師の指導を熱心に聞きながら、お気に入りの新聞記事で、オリジナルのしまんと新聞ばっぐを仕上げました。

芸術祭の開催にあたりご協力いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。来年度も多くの出展や発表をお待ちしております。



どれにしようかな？（しまんと新聞ばっぐ作り）



一生懸命のりを塗るよ！



持ち手を作っています！

学校作品展入賞者

硬筆の部

1学年

金賞 二神 涼真
銀賞 秋澤 一凛
銅賞 高見 詩子

6学年

金賞 那須 秋仁
銀賞 高橋 正宗
銅賞 中越 愛永

5学年

金賞 田尾 心花
銀賞 中越 さちの
銅賞 杉原 侑

4学年

金賞 佐伯 和佳
銀賞 田代 己鈴
銅賞 長田 大藏

3学年

金賞 中越 妃叶
銀賞 立道 成
銅賞 中山 舜

2学年

金賞 小野川 悠月
銀賞 松山 瑞季
銅賞 今城 暖人

毛筆の部

3学年

金賞 中越 斗翔
銀賞 中越 菜月
銅賞 高橋 芽以

4学年

金賞 秋澤 蒼佑
銀賞 中越 樹生
銅賞 山本 陽友

8学年

金賞 石戸谷 小美
銀賞 森山 一成
銅賞 高山 花和

7学年

金賞 上川 璃心
銀賞 長田 みのり
銅賞 尾野 萌那

● 9学年			● 8学年			● 7学年			● 6学年			● 5学年		
銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞
尾野	上田	吉富	宮内	西村	西森	中岡	河野	中越	森山	高見	高橋	中越	武田	西村
聖真	心結	寿	美璃	悠生	妃世	豊平	天空	桜空	旬	琴子	優奈	春菜	希美	葵衣
● 4学年			● 3学年			● 2学年			● 1学年			<div data-bbox="1220 548 1284 907" data-label="Image"> </div>		
銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞			
田代	中越	前田	佐喜	中越	中山	原	今城	吉門	二神	村田	中越	<div data-bbox="1220 728 1396 907" data-label="Image"> </div>		
己鈴	樹生	祥利	暖	捺	舜	希実子	暖人	空明来	涼真	凛	心風			
● 9学年			● 8学年			● 7学年			● 6学年			● 5学年		
銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞	銅賞	銀賞	金賞
森野	掛橋	川村	中越	中越	西村	津野	山本	上川	木下	高見	西村	杉原	田尾	中越
天晴	一学	陽風	恋美	幸一	悠生	優希音	ひより	璃心	悠汰	琴子	美緒	侑	心花	新太



町民作品展の様子



町民ステージの様子（話芸クラブ）



町民ステージの様子（梶原学園音楽部）

町民ステージの様子
（ドリーム・須崎市 with ア∞カペラ5・梶原）

令和7年度 『高陵消防連合演習』開催

10月12日、午前9時から津野町の東津野B & G海洋センターグラウンドにおいて、高陵消防連合演習（須崎市、中土佐町、津野町、梶原町）が、団員ら約270名の参加により行われました。

今橋正直会長からの訓示（津野消防団長）の後、池田洋光高幡消防組合長（中土佐町長）、池田三男津野町長、森本順也高知県危機管理部消防政策課課長補佐、片岡隆章高知県須崎警察署署長の祝辞の後、選手宣誓が行われ津野消防団の岡崎秀哉部長が日頃の訓練の成果を発揮し全力で競技に臨むと誓いました。

梶原消防団から総勢59名が参加し、教練の部には第3分団、小型ポンプ操法の部には第5分団、ポンプ車操法の部には各分団から要員が出場しました。

教練の部は、指揮者の号令に従い、団員22名が整列や行進を行い動作の機敏性や統一性を競いました。

小型ポンプ操法、ポンプ車操法は令和8年6月28日に行われる高知県消防操法大会への出場権が懸っており、各団共に正確さとスピードを兼ね備えた動きでホースを延ばし、標

的に放水し、日頃の練習で磨き上げた技を披露され、ハイレベルな戦いが繰り広げられました。

● 教練の部

優勝 梶原（第3分団）

準優勝 津野

第3位 中土佐

● 小型ポンプ操法の部

（優勝団は県操法大会出場）

優勝 梶原（第5分団）

準優勝 中土佐

第3位 津野

● ポンプ車操法の部

（優勝団は県操法大会出場）

優勝 梶原

準優勝 津野

第3位 中土佐

小型ポンプ操法の部・自動車ポンプ操法の部で優勝した梶原消防団は来年、高知県消防学校で行われる高知県消防操法大会に出場します。

自動車ポンプ操法にあっては、平成11年以來の県大会出場となります。



教練の部 優勝



ポンプ車操法の部 優勝

高幡消防津野山分署

● 小型ポンプ操法要員

指揮者 団員	川上	政志
1番員 班長	隅田	雄策
2番員 部長	山内	孝信
3番員 班長	宮岡	誠二
補助員 班長	川上	純弥

● 自動車ポンプ操法要員

指揮者 団員	岩本	翔大
1番員 団員	畠山	貴至
2番員 班長	中越	有基
3番員 団員	島村	香弥
4番員 班長	上川	哲志
補助員 団員	村上	崇

土佐牛まるかじり大会 ゆすはらグルメまつり 開催

9月20日、第36回土佐牛まるかじり大会を梶原川の河川敷にて開催しました。心配された天気も持ちこたえ、町内外から約500人の方に来場いただきました。



アメゴのつかみ取り



まるかじり大会 会場の様子

土佐和牛の炭火焼きバーベキューに加え、町内ほか出店ブースの商品も好評でした。集落活動センターおちめんが育てたアメゴのつかみどりコーナーでは、200匹を放流したところ、世代を問わず多くの皆様に楽しんでいただきました。

また、10月4日、5日にはゆすはらグルメまつりを、梶原町総合庁舎駐車場及び周辺を会場に開催しました。

今回は梶原町（13店舗）、高知県内（梶原町を除く15店舗）、愛媛県内（19店舗）の出店がありました。その他、梶原町産の木材を使ったワークショップや高知家ウオーキングチャレンジ、ゆすはら雲の上観光協会による子ども向けの遊びや、四国カルスト広域連携推進協議会によるEバイク体験などもあり、合計で52店舗の出店となりました。初日は雨の影響もあり来場者は少なめでしたが、翌日曜日は心地よい風も吹く天気に恵まれ、延べ約1万2千人の来場者があり、売り切れる店舗が続出する盛況ぶりでした。



長い行列ができていました



グルメまつり 会場の賑わい

梶原町グルメまつり
実行委員会会長

（梶原町商工会会長）

長山 和幸



くるくるショップの様子

梶原町廃棄物減量等推進員連絡協議会では、毎年芸術祭に合わせて「くるくるショップ」を開催しています。「くるくるショップ」とは、まだ使うことができる不要になった物を持ち寄り、希望者に無料で持ち帰ってもらい、リユース（再利用）によるごみの減量を目的とした取組です。

その結果、約59kgの物をごみにせずに、リユースすることができました。

当協議会では、これからも適正なごみの分別方法や出し方、減量方法について、協議や啓発活動に取り組んでまいります。

生ごみの水切りをしましょう

濡らさない

野菜の皮や食材の使わないところは、洗う前に切り落とし、直接ごみ箱へ捨てる

しっかりとしぼる

三角コーナーなどには水切りネットを使い、ごみ袋に入れる前にひとしぼりする

乾燥させる

捨てる前に濡れている生ごみを乾燥させて水分を飛ばす

皆さまのご理解とご協力を
よろしく願いたします。

梶原町廃棄物減量等推進員
連絡協議会

会長

西川 陽子

環境整備課 生活環境係

リユースイベント10月26日 「くるくるショップ」 開催



栲原こども園だより



いつも一緒に行ってくれる百一草園の中華さんに、草花のことを教えてもらいながら散策したり、どんぐりや松ぼっくりなどを拾ったり、木やツルにぶら下がって遊びました。



5歳児ぞう組が矢崎の森探検に行きました。

矢崎の森探検

利用者さんとタッチ!



こども園のそばにある、栲原町複合福祉施設・YURURUゆすはらの敬老会に5歳児ぞう組が参加しました。

YURURUの敬老会

たくさん遊んで、お弁当を食べて、嬉しそうな子ども達でした♪



春と一緒に田植えをした高校生と、収穫をしました。上手に稲刈りができました。



栲原高校生と稲刈り

ぞう組の子ども達は、YURURUの利用者さんに踊りを披露し、お話をして交流しました。



～栲原こども園わくわく運動会～

各年齢に合わせて取り組みました

0歳児 ひよこ組



4歳児 きりん組



5歳児 ぞう組



3歳児 ぱんだ組



1歳児 りす組



2歳児 うさぎ組



5歳児 ぞう組



こども園
ホームページ





梶高だより

体験入学

9月18日、中学生1日体験入学を開催しました。県内外から中学生60名を含めた約120名が来校し、授業・部活動体験、寄宿舎見学などを通して、梶原高校への理解を深めました。

この体験入学には在校生もサポート役として参加しました。最初は緊張気味だった中学生も、高校生と交流するうちにリラックスし、いろいろな話をしていました。

多くの中学生が梶高を志願してくれ、ことを期待します。

文化祭



第40回梶原高校文化祭が「青瞬旺華」をテーマに、9月26日・27日に開催されました。

2年ぶりの開催で、250名以上の保護者や地域の方々が訪れてくれました。

舞台発表・ステージ発表は、デイスカバークラブによる津野山神楽、総合的



文教協会賞受賞



県内高校の優れた文化部活動に贈られる最高賞の文教協会賞を、デイスカバークラブが受賞しました。

長年にわたる地域の伝統芸能の伝承活動を行い、地域活性化に貢献していることなどが評価され、10月20日に受賞式が行われました。



龍馬脱藩マラソン



10月12日の第12回龍馬脱藩マラソン大会では、全校生徒がボランティアとして参加しました。

台風が近づき、開催も危ぶまれました。



たが、当日は秋晴れとなり、生徒たちは、放送、エイド、スポンジ、メダル等の係に従事しました。ゴール付近では、神楽のお囃子で盛り上げるとともに、拍手で完走を祝福していました。

キャリア教育講演会



梶原学園8年生、東津野中学2年生、梶高生全員を対象に、10月17日、キャリア教育講演会を行いました。

は多くの質問も出されました。



雲の上の図書館だより

YUSUHARA COMMUNITY LIBRARY JOURNAL ☎0889-65-1900



本をひらく楽しさ

2025 秋の読書週間



雲の上の図書館では『木漏れ日で読書』をテーマに、森が出てくるものや関連する本の特集本棚を作成しました。それに合わせて、図書館に隠されたクイズを探し、本のなかの答えを見つけるクイズラリーを開催。全て正解の人には特製の栞とシールをプレゼント。図書館の中にある様々な本を知るきっかけと本を開く面白さを体験してもらえたようです。図書館には、釣りや野菜作りなど、暮らしの本もたくさんあります。お気軽にご相談ください。

心と身体のリフレッシュ

ダンスワークショップ (10/25開催)



舞台アーティストとして活動している奥萌さんをお招きし、親子で楽しむリズム体操と初心者でも楽しめるダンスワークショップを開催しました。親子体操では、赤ちゃんから小学生まで音楽に合わせて拍手や足踏みをしながらのびのびと身体を動かしました。小学生以上のダンスワークショップでは、子どもも大人も思いっきり身体を動かしながらダンスの楽しさを感じていました。今後も参加したいと要望もあり好評で終わりました。

知って、みらいにつなげる

『今と未来がわかる農業』

監修：堀田和彦

農業の未来はどこへ向かうのか？就農者の減少、耕作放棄地など課題が山積みの現状を、データと共に分析し課題を提示。ドローンなどの最新技術や、新たな取組を紹介することで先の展望を照らし出します。



おもしろい! が世界をすくう?

『わらって、考える! イグ・ノーベル賞ずかん』

監修：吉澤輝由

イグ・ノーベル賞とは、笑って考えさせる研究に贈られる賞。世界中の研究者たちが大マジメに、人間をお休みしてヤギになったり、バナナの皮で滑ったり、一見ムダ、でも実は大きな発展につながる研究を紹介。



ご紹介した本が貸出中の場合は、予約ができます。お気軽に図書館カウンターまでお問い合わせください。

12月の休館日 (27日～29日, 31日は18時閉館)

2日, 9日, 16日, 23日, 26日, 30日

1月の休館日 (3日は18時閉館)

1日, 2日, 6日, 13日, 20日, 27日, 31日

高知県障害者スポーツ大会

10月5日、高知市総合運動場陸上競技場（りょうまさスタジアム）で、第27回高知県障害者スポーツ大会フライングディスク競技が開催されました。この大会は、障がいのある方がスポーツを通じてスポーツの楽しさを体験し、県民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的とした大会で、梼原町からは7名の選手が出場されました。当日は天気が心配されましたが、大きな崩れもなく気持ちの良い秋日和で、選手の方々は日頃の練習の成果を存分に発揮され、すばらしい結果を残しました。各部門の上位3位までの方にメダルが贈られました。各選手の参加種目と記録は次の通りです。

部 門	各部門の順位	氏 名	記 録
アキュラシー （アキュラシー ゴールが ディスクが 通過した回数を 競う）	4位	中 越 一 吉	1 得点
	4位	藤 原 良 男	5 得点
	4位	倉 橋 義 郎	5 得点
	3位	西 村 賢 一	3 得点
	2位	宮 本 友 和	5 得点
	4位	中 越 真由美	5 得点
	3位	中 越 安 平	4 得点
ディスタンス （ディスクの 飛距離を競う）	4位	藤 原 良 男	15m12cm
	7位	倉 橋 義 郎	14m48cm
	6位	中 越 一 吉	16m61cm
	4位	西 村 賢 一	18m82cm
	2位	中 越 安 平	24m61cm
	2位	宮 本 友 和	21m19cm
	2位	中 越 真由美	14m16cm



梼原町選手団のみなさん

上段：右から倉橋義郎さん、西村賢一さん、宮本友和さん、下段：右から中越真由美さん、藤原良男さん、中越安平さん、中越一吉さん



銀メダルを獲得しニコニコの安平さん



無事に競技を終えて、ほっとした様子の倉橋さん

保健福祉課

観光協会だより

GUIDE'S VOICE

歴史が紡ぐご縁に惹かれて
ガイドとしてのよろこび

梼原町の魅力をお客様へお伝えする観光ガイドとして活躍されている伊藤さん。

そのきっかけは、偶然参加した「ガイド養成研修」でした。多くの受講生がいた研修でしたが、最終的に残った人数はわずか。気づけば成り行きで始まったガイドのお仕事でしたが、今ではすっかり伊藤さんの大切なライフワークになっています。

ガイドを続ける中での楽しみは、町外から訪れる方々との出会いだと言います。

「いろいろな地域から来られるお客様とお話ができて、さまざまなか情報や視点が触れられるのが嬉しいですね。特に私は歴史が好きなので、歴史に興味のあるお客様が来られると、つい話が盛り上がり、つい笑顔になります」と笑顔



で話してくださいました。実際にガイドを受けたお客様からは、「とても楽しかった！」「次は友達も連れてきますね」といった嬉しい声が寄せられています。



また伊藤さんは、お客様が安心して楽しめるよう、常に細やかな気配りをしています。

ガイド前には、どちらからいらっしゃるか事前に調べ、話題の幅を広げる工夫を。ガイド中は、交通量の多い道を通る際の安全確保や、大人数の団体では歩行が離れがちな方への配慮など、一人ひとりに目を配っています。

「梼原の歴史には奥深さや独自性があります。その魅力を感じていただけたら嬉しいです」

歴史への情熱と、訪れる人への丁寧なおもてなし。伊藤さんのガイドには、人と町をつなぐ力があります。

昨年も多くの方に参加いただきました。
令和6年度ガイド実績…3441人

9月の利用者数

宿泊者数

1249人
(前年比101%)

ガイドツアー

人数 / 組数

204人 / 16組

ゆすはら雲の上観光協会

我が故郷 ゆすはらへ (上)

今年5月、梶原出身でスウェーデン在住の中越紘詔さんがご家族と梶原に帰省されました。80才代を迎え、最後の帰省になるかもの気持ちも持たれた中、故郷への思いを綴っていただきました。

なかよしひろつぐ 中越 紘詔さん

1940年生まれ、越知面永野出身。越知面小中、高知高、中央大法学部法律学科卒業後、スウェーデン・ウプサラ大法学部博士課程中退。その後、会社経営（スウェーデン住宅及び建材輸出）。

5月下旬、息子夫婦同伴で8年振りに梶原に帰郷しました。コロナ禍に加えてプーチンのウクライナ侵略戦争の影響で帰国を逡巡しているうちに、85歳の高齢に達してしまつた次第です。梶原の人達も自然も、やはり優しく私を包み込んでくれました。甥夫妻（中越拓平・あかね）の丁寧な案内のお陰で梶原の現状をこれまで以上に見ることができました。

洗練された素晴らしい図書館、総合庁舎、町の駅、マルシェなど木造建築群は斬新でありながら梶原の地勢・自然環境に調和した佇まいを醸し出していました。更にその源流となつたのが、旧公民館・ゆすはら座ということも知りま

した。ゆすはら座の2階の栈敷席の一隅に立った時、小中学生時代の記憶がまざまざと蘇ってきました。学校行事としてここで上映された映画「きけ、わだつみの声」を観、戦争の理不尽と悲惨さを痛感しま

した。ジャンヌ・ダルクの映画を観たのも、ブルースの女王淡谷のり子の「白樺の小径」「別れのブルース」を生で聴いたのもここでした。卓越した建築家と山間の自治体で長い歴史に耐えてきた古い公民館の運命的な出逢いから始まつた、斬新的な大型木造建築。もしこの建物が無かつたら隈研吾氏と梶原の縁は無論のこと、日本の大型木造建築は現状とは別の道を辿っていたに違いありません。未来に展開する果てしないロマンさえ感じます。

今回の帰郷は、墓参もさることながら、私のアイデンティティーの再確認が目的でした。元来個々の精神に内在するものですが、その根源は私が生を受け、幼年・少年期を過ごした梶原町、墳墓の地永野にあるのだらうと思います。三つ子の魂百までと言います。私

の原風景の中には、生家から毎日眺めた南前方に鎮座するなだらかな城ヶ畝があつて、目を閉じればそれに重なる穏やかな山並みが彷彿と蘇ってきます。アマゴを手掴みした四十万十川源流のせせらぎも聞こえてきます。

在予定が、どう道を踏み違えたのか、半世紀以上もこの国に留まることになります。スウェーデンは、

日本の1・2倍の国土を有し、総人口約1066万（225万人にあたる21%はスウェーデン国籍を取得した移民）の小国です。ノーベル賞を授与する国、豊かな福祉国家、外交を最優先する平和国家、国会議員数は男女拮抗、政府の閣僚は男女ほぼ同数、などご存じの方も少なくないと思います。例えば、現保守連合政権の環境大臣はイランからの移民で29歳の女性です。選挙制度は民主主義をとことん追求した完全な比例代表制。死票は最大で4%止まりです。世界のあらゆる国から移民を受け入れていて法的な人種差別は皆無、スウェーデン人と全く同じ権利を有します。

今でこそ豊かな高福祉国家ですが、嘗ては貧乏な農業国で、1800年代から1920年にかけて国民の約4分の1に当たる150万人が北米に移民しているのです。合理が合理として通る国。勤勉且つ真面目。弱者に対する思いやりに富み、それが高福祉、移民受け入れの誘因の一つ。「アレマンスレット」と言う日本の入会権に似

た慣習法があつて、公有地私有地を問わず野生の茸、ベリ、木の実、草花などの自然物をだれでも採取できます。入会

権と違うのは、外国人を含む外部の人にも適用される開放的な慣習法の存在です。現に、晩夏から初秋にかけてブルーベリやコケモモ採りに、タイから大勢の出稼ぎ労働者が入ってきました。

1974年に永住権を取得している私は、その気になれば何時でもこの国の国籍を取得できます。その場合、日本は二重国籍を認めていないので、私の日本国籍は消滅・無効、つまり日本人ではなくなるのです。スウェーデンでは、永住権を取得すれば、国政選挙権がない

のを除けば外国籍のままでも本国人と権利は全く同等で、法的に一切差別はなく何の支障もありませ



息子夫婦達と共に吉田町長を訪問

ん。因みに、我が家は夫婦別姓、しかも妻子孫ともスウェーデン国籍、私は少数派です。家族や友人

からは、国籍取得を進められます。これまで国籍についてさして深く考えないまま、何の痛痒もなく日本人を続けてきたのですが、人生の黄昏時に差し掛かると、結局はこの地に骨を埋めることになるという現実を前にやはり迷いは出てきます。

日本の急激な人口減少に歯止めが掛かる気配はありません。梶原も私の小中学生頃とは隔世の感があります。当時人口は1万3千人を超えていたのではないでしょう。当時村内の学校は8校、毎年陸上、相撲、ソフトボールの対校試合や写生会などが開催されたものです。越知面小中学校だけでも、600人以上の生徒がいました。現在町全体の人口は3千人余まで激減し、小中学校は統合1校のみ、高齢率も40%を越えたと聞きます。正に数十年後の日本全体の状況を先取りしていると言われる所以です。とは言え、今回の帰郷で梶原に衰頹疲弊は感じられず、寧ろある種の活気すら実感しました。

〈下〉に続く



中越紘詔 記

毎年11月30日は 「年金の日」です

11月30日(いいみらい)は、国民お一人おひとりに「ねんきんネット」等を活用して、ご自身の年金記録や公的年金の受給見込み額を確認していただき、高齢期の生活設計に思いを巡らしていただく「年金の日」となっています。

「ねんきんネット」は年金記録や年金見込み額を確認できるサービスです。国民年金の加入月数や納付状況等の最新の記録をパソコンやスマートフォンから手軽に確認できます。

【ねんきんネットのQRコード】

詳しくは
こちらから



https://www.nenkin.go.jp/n_net/

また、マイナンバーカードをお持ちの方であれば「マイナポータル」からログインすることで年金記録の確認ができます。

国民年金保険料を納めないまま放置すると、年金を受け取ることができない場合があります。

保険料を納めるのが難しい場合は、申請することで、保険料の納付が免除、または猶予される制度があります。

くわしくは日本年金機構ホームページまたは総務課住民係(☎65-1111)まで

12月の行事予定

- 9日(火) 人権相談・行政相談(10:00~15:00) 24日(水) 栲原高校2学期終業式
 13日(土) 大越粗大ゴミ受入日・環境整備デー 25日(木) 栲原学園2学期終業式
 20日(土) 栲原町交通安全の日 27日(土) 消防団年末警戒パトロール(30日まで)

※行事予定は変更となる可能性があります、ご了承ください。

12月の保健福祉課行事予定

- 1日(月) げらげら家族会 11日(木) 越知面デイサービス友の会
 3日(水) 松原サテライトデイサービス 四万川いきいき交流会
 4日(木) 四万川宅老所 東区宅老「えくぼ」
 5日(金) 初瀬いきいきふれあい広場 12日(金) エプロン会再研修
 ウォーキング教室 16日(火) 男性の料理教室
 10日(水) 愛育相談 18日(木) 四万川宅老所
 19日(金) 東区いきいきふれあい広場
 23日(火)

月曜日～金曜日 子育て世代包括支援センター(支援センター1階)

※妊娠や子育てに関する相談がありましたら、気軽においでください。
 (電話でも構いません。☎65-1170までお願いします。)

川畑真理子心理カウンセラーの相談日(月2日)…… 22日(月)、23日(火)

※相談希望の方は、子育て世代包括支援センター ☎65-1170までお願いします。



※行事予定は変更となる可能性がありますのでご了承ください。

寄付のお礼

このほど、次の方々からご寄付をいただきました。町ではその趣旨を十分に尊重し、有効に活用させていただきます。
 紙面をもってお礼とご報告申し上げます。

【ふるさとづくり寄付金】

松久保 祐亮様
 岡本 航輝様
 塚本 駿士様
 上垣 匡史様
 竹崎 亨様
 西森 麻喜子様
 辻 剛久様
 馬場 弘樹様
 西谷 修一様
 鈴木 史季様
 沢田 元一郎様
 松下 和樹様
 匿名希望の方 351名

【広報への寄付】

松本 君恵様 (愛媛県)

【その他の寄付(香典返し)】

西村 宗格様 (竹の藪)
 故西村昭雄氏逝去に伴う
 (社会福祉へ)



● おくやみ

住 所	死亡者名	年齢	死亡年月日
六 丁	松本 房子	78	令和7年10月10日
六 丁	西村 善晴	85	令和7年10月13日

● ご結婚

届出時の住所	夫婦氏名	婚姻日
大蔵谷 大蔵谷	夫 掛橋 勝司 妻 中崎 愛子	令和7年10月3日

※個人情報につき掲載の了解をいただいた方を掲載しています。

文芸

柚子の木俳句会

柩出でし静寂の中秋の雲

西村由利子

薪を割る八十齡よわいの音となり

西森誠子

一条の光葉虫の穴と知る

中平忠雄

柿剥ぎて御詠歌あとの笑い声

中越郁子

ランナーの背に残酷の文字残暑

渡辺瑞枝

熊襲うのニュースを耳に柿をはぐ

吉田敬子

団栗について手を伸ばす山路かな

中越昌一

遠雷や久しい上司夢に立つ

広瀬卓雄

「団栗について手を伸ばす山路かな」
今年には東北の方で団栗が不足し、熊が人家側に出没しているようです。このあたりでは、熊の生息はなく団栗不足も感じません。山路を歩いていて団栗を見ると、条件反射のように手を伸ばし手に取ってしまいます。古代採取時代からのDNAかも。

杉の子俳句会

人の影踏んで踊りの輪の進む

大崎みなと

バラ銭で雑魚買いにゆく秋の暮

西村蓉子

清流に卵抱えて鮎下る

影浦鉄心

天高し理想と背丈縮みおり

明神伊佐子

彼岸花水路のそばで揺れており

前川 淳

四万十の川の流れや秋の水

氏原陽子

文鎮の半紙めくれてそぞろ寒

内野純子

駆け抜ける脱藩道や菊香る

西村幸枝

石橋を叩き損ねし賜日和もずびより

久岡智子

コスモスを揺らして過ぐるキッチンカー

掛橋初子

くちびるは誠と嘘を貝割れ菜

川田早苗

「人の影踏んで踊りの輪の進む」
小学校の校庭に櫓やぐらが組まれ、揃いの浴衣を着て子供たちは法被で踊りの輪に加わりました。よさこい鳴子おどりや梶原音頭を繰り返し踊り続けました。昭和の高原まつりの懐かしい思い出です。

梶原町のいろいろなサイトをご紹介します

ゆすはら散歩

奥四万十時間
Instagram

ゆすはらキャンプ場
Instagram

ゆすはら雲の上観光協会
Instagram

四国カルスト広域連携推進協議会
Instagram

ライダーズイン雲の上
Instagram

梶原町公式ホームページ
<https://www.town.yusuhara.lg.jp/>

わが町の人びとの動き

世帯数 1,668 (10月末) / 1,664 (9月末)

人口 3,021 (10月末) / 3,023 (9月末)

出生	死亡	転入等	転出等
0	3	4	3

神在居千枚田 石積みワークショップ開催

国選定重要文化的景観「四万十川流域の文化的景観 上流域の山村と棚田」の重要な構成要素である神在居の千枚田の石積みの保全に向けて、11月3日・4日に石積みワークショップを開催しました。町では令和5年度から神在居集落の営農環境整備に向けた実態調査等を実施しており、今回のワークショップは今後の石積み整備に向けての試験的な取組として、石積み技術の継承をしながら、日本各地の石積みの修復を行っている一般社団法人石積み学校の金子玲大氏を講師に迎え行いました。

ワークショップには、県内外から8名が参加し、金子講師から石積みの仕組や石の積み方などを教わった後、作業に取り掛かりました。現在、耕作が行われていない田んぼをお借りし、崩れかけていた石積み解体した後、理論に基づきながら石を積み上げていきました。2日間の作業で高さ1メートル余り、幅10メートル程の修復を行いました。完成後に、金子講師による講評や手直しがあり、参加者からは「どの石を積みれば良いのか選ぶのが難しかった」「人によって積み方が違うので、それを見るのもおもしろかった」という感想がありました。

山間の傾斜地という厳しい条件の中、先人達が石を積み築いた棚田の整備について、今後関係者と協議しながら取り組んでいきます。

次回は11月29日・30日に神在居千枚田の水路の一部を会場に、ワークショップの開催を予定しており参観自由です。問合せは、生涯学習課（☎65・1350）まで



完成した石積み



作業の様子

生涯学習課

広報委員のつぶやき

NHKの朝ドラ『あんぱん』をきっかけに、やなせたかしさんの名言を知り、そのいくつかが心に響いています。

「人生は喜ばせごっこ」

「ごっこ」という言葉が、子供の小さな遊びを想像させ、押しつけがましくなくて気に入っています。

これこそ日常の喜ばせごっこだなあと感じるのは梶原の町のご近所づきあいです。畑の野菜や手作りのお惣菜のおすそ分け、困ったときに声を掛け合い助け合う。そんなやりとりから、私は梶原に移り住んで周りの人を大切にする優しさを学んできました。年齢を重ねるにつれ、そうした身近な心づかいが、時には大変なこともある山の暮らしに安心感をもたらしてくれています。都会と違って、こうでなければ田舎の暮らしは成り立たないのかもしれない。

「それぞれが自分にできることをやる」

私の母は94歳。認知症も進み体も弱り、あちこちの施設や病院で入院を繰り返しながらも、ようやく今は梶原の老人ホームに落ち着き、車椅子で生活できるようになりました。面会に行くとお茶も出してあげられないねと母は私を気遣い、困惑しながらも笑顔を見せてくれます。もう何もできなくなった母ですが、笑顔を見せてくれる。それだけで私にとってはありがたく、私を元気にしてくれます。

「目の前にいる人を喜ばせる」「一瞬を一生懸命生きる」等々、やなせたしさんの言葉を、ほんとにそうだなと、ひとつひとつかみしめています。

「広報ゆすはら」の表紙写真を募集しています。

応募方法等の詳細は役場総務課（☎65-1111）までお問合せください。